



# 市立旭川病院



## 病院データ

住所	〒070-8610 旭川市金星町1丁目1番65号
URL	<a href="https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/hospital/index.html">https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/hospital/index.html</a>
連絡先(窓口)	教育研修課 0166-24-3181 (代表) 内線5468 h_kenshu@ach.hokkaido.jp
病床数	481床
専門研修指導医数	19人
臨床研修指導医数	33人
外来患者数	856人/日※令和4年度(2022年度)実績
入院患者数	225人/日※令和4年度(2022年度)実績
給与(月額)	43万円



## 専門研修プログラム

### 内科

### 市立旭川病院内科専門研修プログラム

北海道上川医療圏の中心的な急性期基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。研修期間は基幹施設2年間と連携施設1年間の3年間になります。連携施設の選択によっては旭川市内の医療機関のみでの研修完了も可能なプログラムです。2021年度からは内科基本コース(3年間)に加えて消化器内科サブスペシャリティコース(3年間)があります。

〔連携施設〕

【大学病院】旭川医科大学病院 【病院】国立病院機構旭川医療センター

【特別連携等】北海道立羽幌病院/枝幸町国民健康保険病院

### 総合診療科

### 市立旭川病院総合診療専門研修プログラム

臓器別でない複数の問題に横断的に対応可能な総合診療医を育成します。多数の専門科での研修も可能なため、より専門的知識を要求される病院総合医を目指す3年プログラムと、医療資源の乏しい診療所とタイアップし、地域密着型の家庭医を目指す4年プログラムがあります。

〔連携施設〕

【大学病院】旭川医科大学病院 【病院】国立病院機構旭川医療センター/北海道立羽幌病院

【診療所】国民健康保険東川町立診療所/国民健康保険上川医療センター/北星ファミリークリニック

### 精神科

### 市立旭川病院精神科専門研修プログラム

総合病院精神科での研修を中心とした本プログラムでは、精神症状のとらえ方、診断技術、鑑別診断、各種検査、治療法を学ぶとともに、薬物療法、個人精神療法、集団精神療法、作業療法などの治療方法を柔軟に組み合わせることで最良の治療を行っていく思考を養うことができます。本プログラムは、精神科医療を幅広く学ぶことが可能で、バランスのとれた精神科医を養成することを目指します。また、本プログラムの大きな特徴として、指導医が児童精神医学のサブスペシャリティを有していますので、同領域について精神科専門医取得後に専門の研修を受けることが可能です。

〔連携施設〕

【病院】旭川圭泉会病院/名寄市立総合病院

## 院長から

市立旭川病院は、道北地域の高度医療を担う急性期基幹病院です。特に心血管系・消化器系診療の他、精神神経科疾患の拠点病院となっています。

また、地域がん診療連携拠点病院としてロボット手術、放射線治療などの先進的な医療も行われております。明日の医療を担う優れた医師を育てることを目標に研修プログラムの改良、研修環境の整備を行っております。

当院で颯爽と仕事し、社会から尊敬されるご自分の姿を想像して下さい。



院長 石井 良直

## プログラム統括責任者から



内科プログラム統括責任者  
稲場 勇平

市立旭川病院は道北地区の急性期基幹病院として重要な役割を担っています。

Common diseaseから高度な専門的知識・技術が必要な疾患に至るまでの豊富な症例の診療を通じて、君たちには研修終了後、オールマイティーの内科専門医となって頂きます。内科基本コース（3年間）と消化器内科サブスペシャリティコース（3年間）の2コースがあります。選択によっては、全研修期間を旭川市内のみでの研修の完結が可能なプログラムです。

道北の内科医療の未来を牽引する熱く燃える専攻医の集結を熱望します。

総合診療医の必要性が広く認識されつつありますが、まだまだ足りないのが実情です。総合といっても全てに精通することではありません。必要なのは飽くなき好奇心と、固定観念に囚われない柔軟な思考力と、臨機応変に対応する行動力です。

明るく未来と抜群な吸収力のある若手医師、臓器別専門医からの転向志望者、復職希望の女性医師、他職種経験者などあらゆる人たちにその門戸は開かれています。さあ一緒に総合診療の世界に踏み出しましょう。



総合診療プログラム統括責任者  
鈴木 聡



精神科プログラム統括責任者  
武井 明

精神科医を目指す若い先生たちの多くが、精神科臨床の中でとくに興味を持つ領域は児童思春期精神医学と精神療法ではないでしょうか。

本プログラムでは精神科医療全般について、必要とされる研修を受けてもらいますが、これら2つの領域についてより深く学ぶことが可能です。

児童思春期患者に対する治療では、精神療法が中心的な役割を果たしますので、児童思春期精神医学と精神療法は切っても切れない関係にあり、児童思春期精神医学を学ぶ＝精神療法を学ぶと言っても過言ではありません。若い精神科の先生が、児童思春期患者と向き合う際には、机上の医学知識だけでは上手に対応できないことばかりです。そのため、これまでの自分の人生のなかで経験したことすべてを総動員しながらエネルギーを注ぐことになります。一見、大変なように思えますが、このことが児童思春期精神医学のおもしろさにつながるのではないのでしょうか。

児童精神科医は全国的にみてもまだまだその数は多くはありません。未来のある子どもたちを救うために、若い皆さんと一緒に仕事をできることを夢んでいます。